

子や孫に過度の負担をさせずに、持続的発展を目指して。財源は市民の税金。

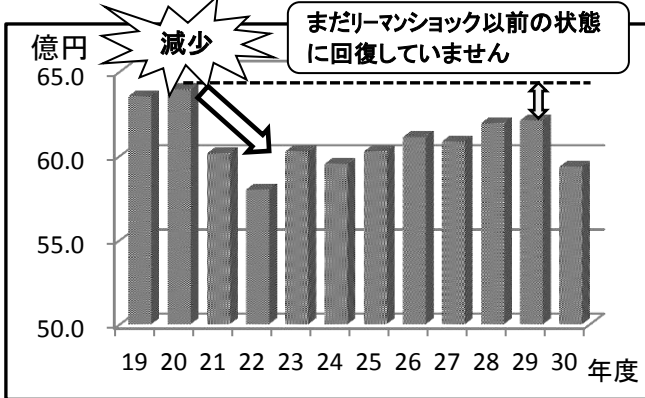
# 須坂市がすすめる財政運営

## ①市税収入と扶助費(社会保障費)の状況

全国と同様に須坂市が直面する、「人口減少と超高齢化」は

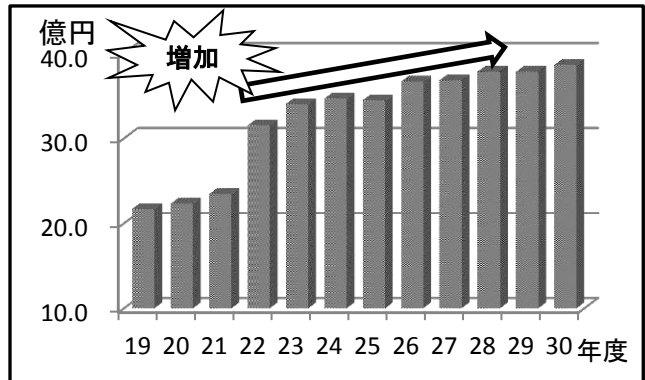
**税金や保険料を負担する人が減り、サービスを必要とする人が増える社会です**

市税収入の推移 (H29は決算、H30は9月補正後)



市民一人あたりの市税収入額は、平成29年度決算において19市中17番目で、財政基盤は脆弱です。(21年度～リーマンショックの影響)

扶助費(社会保障費)の推移 (H29は決算、H30は9月補正後)



超高齢社会の到来、子育て支援等により、扶助費(社会保障費)は増え続けています。(22年度の伸びが大きいのは、子ども手当創設による)



## ②公債費(市が借りたお金(市債)の償還金)の見込み

**真に必要な施設整備を着実に実施するため、借入額は抑えつつも市債を活用したことにより、今後、償還額が増えます。**

厳しい財政状況の中、行財政改革チャレンジプランなどに沿った改革により財源を工夫して、市民の安全・安心を守るため、市役所庁舎、小中学校などの耐震補強工事と老朽化した市立保育園、地域公民館の建替えを進めてきました。

完了しました

市役所・市民体育館  
の耐震補強

完了しました

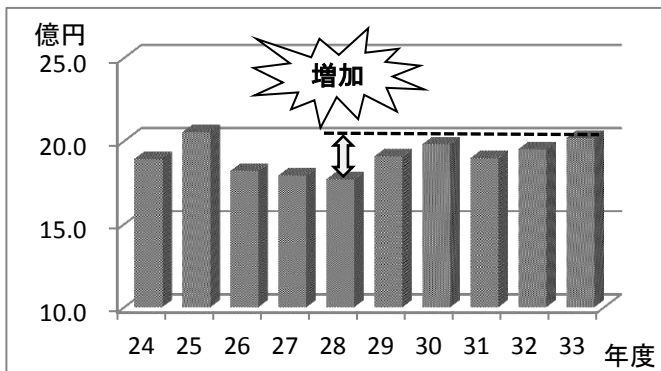
小・中学校校舎  
体育館の耐震補強

完了しました

市立保育園・  
地域公民館の建替え

### 公債費の推移

(H29は決算、H30は9月補正後、H31以降は実施計画等による試算)



施設整備は、国や県の補助制度を研究して活用したほか、世代間の負担の公平のため、市債(借入金)も有効に活用しました。市債は、償還時に財源措置のある「有利な市債」を厳選しています。

※須坂市では後年度に元利償還金の一部が地方交付税として措置される市債を厳選して活用しています。(残高の約76%が交付税措置)  
※公債費の見込み額は今後実施する事業で変動します。

### ③今後も増え続ける財政需要

**人口減少と超高齢社会の到来、公共施設の老朽化等により、  
今後も財政需要は増え続けます**

#### ソフト事業

医療費増加への対応、人口増加策や子育て支援など、新たな市民ニーズへの対応が求められます。



扶助費(社会保障費)の増  
介護給付費の伸びによる特別会計への繰出金の増  
病児保育・病後児保育など新たな子育て支援策  
福祉医療費給付金の現物支給(H30～)  
食物アレルギー対応への体制強化(H30～) ほか

学校給食センターの建替え／清掃センターの将来対応  
小中学校や保育所への空調設置  
小学校の大規模改修(耐震化工事が不要であった学校)  
老朽化した公共施設の維持修繕  
橋梁の長寿命化  
広域ごみ処理施設建設に伴う負担金  
エコパーク関連の地元振興策 ほか

#### ハード事業

公共施設の老朽化によって維持修繕費が増加します。現在策定中の「公共施設等総合管理計画・個別計画」などにより、優先順位を決めて施設の長寿命化に取り組みます。

### ④須坂市の財政指標(H29年度決算)

**必要性、緊急性を考慮した事業実施と徹底した財源の確保で健全財政を堅持してきましたが、  
今後、市債残高は増加し基金残高が減少する中、いかに健全財政を継続するかが課題です**

指標等	指標等	県内19市中の順位(19市平均)	
経常収支比率 ※1	93.4%	19市中19番目(89.5%)	財政の硬直化
実質公債費比率 ※2	8.6%	19市中12番目(7.4%)	
将来負担比率 ※3	33.1%	19市中9番目(48.0%)	脆弱な財政基盤
市民一人あたり市税額	約12万1千円	19市中17番目(約14万1千円)	
市民一人あたり市債残高	約32万9千円	19市中2番目(約42万1千円)	
市民一人あたり基金残高	約10万7千円	19市中13番目(約14万3千円)	

※1 経常的に充当された一般財源が、経常一般財源等に占める割合。財政構造の弾力性を判断する。

※2 一般会計が負担する元利償還金、準元利償還金の標準財政規模に対する比率。早期健全化基準(イエローカード)は25%

※3 標準財政規模に対する将来負担すべき実質的な負債の割合。早期健全化基準(イエローカード)は350%

### ⑤健全財政の継続 (今後も赤字を出さずに、市民サービスを提供するために)

**現事業の見直しをすすめ、真に必要な新たな市民ニーズに応える財政運営**

- 市民との自助→共創→公助を明確化 自分でできることは自分で。地域でできることは地域で。
- 将来世代に負債を負わせないで、持続的発展をするために「求める」から「分かち合い(愛)、譲り合い(愛)、与え合い(愛)」の社会の実現 須坂市はボランティア精神、市民力の高い地域
- 真に必要なとされる事業実施と施設整備。あれば便利だが、なくても大きな支障のない我慢のできるものは十分検討。限られた財源の中、優先順位をつけて事業実施。
- 新しいものよりも、今あるものを大切に、磨く。維持管理の時代
  - ・総合体育館建設ではなく、現体育館の活用
  - ・図書館のレイアウト変更による利便性向上など